

香取遺産

Vol.68

よしわらさんのういせき
「吉原三王遺跡」

香取神宮に封ぜられた 神戸の集落跡



▲「佐原市吉原三王遺跡」発掘調査報告書より

吉原三王遺跡は、東関東自動車道建設の際に発掘調査を実施しました。調査地は、佐原香取インターチェンジから潮来方面へ500mほど行ったところですが、遺跡の北西約1・5kmには、下総国一の宮である香取神宮が鎮座しています。

調査では、古墳時代から中世の遺構・遺物が多くみつけられました。中でも奈良時代から平安時代の集落跡は、溝で区画をして、規則的に住居を建てていることがわかりました。これは当遺跡の他の時期や一般的な集落遺跡にはみられない特徴です。

規則的に配置された住居跡からは、墨書土器が多数出土しています。これらの墨書には、当遺跡を含む周辺の地名である「吉原大島」「大島」などを記したものが

あります。これらの地名は、1162（応保2）年の「大禰宜実房譲状」（「千葉県史資料」）に確認することができ、さらに古い時代からあったことがわかりました。

9世紀前半の墨書土器には、香取郡大环郷中臣人成女之承「香取郡大环郷中臣人成女贄年四月十日道女替進上加万附申上」などがあります。その内容は、大环郷中臣氏からの人の貢進交替にかかわるものです。

「香取郡大环郷」は、750（天平勝宝2）年の治部省牒（「大日本古文书」）に「下総国香取郡神戸大槻郷」とあることから、香取神宮に封ぜられた神戸であることがわかります。神戸とは、律令制のもとで神社に所属して租・

庸・調を納め、神社の経済を支えた民のことです。

吉原三王遺跡は、香取神宮神戸に封ぜられた集落の一端を明らかにしました。墨書土器は、有力豪族であった中臣氏が9世紀前半には当集落に関与していたことを示しています。中臣氏は、古代から神事や祭祀を司ってきた一族です。大化改新後、中臣鎌足は藤原姓を賜りますが、それ以降も中臣氏自体は多くの神社の禰宜神主を歴任してゆきま

す。出土した墨書土器は、香取神宮神戸の姿を語る資料として、平成23年3月18日付けで千葉県指定有形文化財に指定されました。

※文中のは判読不能文字

問い合わせ
生涯学習課

☎(50)1224